

(出席者)

太田貞雄
宇都宮義文
堀 良慶
秋山 功
和田孝明・幸子
新井 博
野原 宏
中村 徹
薄井良昭
杉野和夫
福井 豊
野口 勉
横山俊樹
鈴木忠男
平園賢一
小松富士男
櫻井 武
金子茂夫
井澤尚子

(順不同・敬称略)

あーと・わの会 (通称「わの会」)

第56回放談会

日時 2019年 10月27日(日) 13時～16時
場所 TKP池袋カンファレンスセンター
出席者 (計20名)



第56回放談会(発表順)

出品者 太田 貞雄さん

作家名	田辺 至
作品名	「鎌倉佛」
材料・技法	板・油彩
制作年	不明
サイズ	F4号



コメント

どこのお寺の仏像か、また仏の種類も不明ですが、静かに瞑想している姿は、こころが落ち着いてくる。

作家略歴 田辺 至 (たなべ・いたる/1886～1968年)

東京生れ。1910年東京美術学校西洋画科卒。19年東京美術学校助教授。27年帝展で帝国美術院賞。28年東京美術学校教授。文展、帝展に出品。18年特選。22～24年渡欧、エッチングを学ぶ。27年帝展で帝国美術院賞。29年洋風版画会を結成。36年海軍軍事普及部嘱託となり中支に派遣され記録画を制作、同40年軍務局嘱託を依頼された。55年神奈川県立美術館で回顧展開催。68年没、81歳。

出品者 宇都宮 義文さん

作家名	長倉 翠子
作品名	(1)湯呑 (2) 器
材料・技法	陶土 手びねり
制作年	不詳
サイズ	(1) 8×8cm (2) 7×16cm

コメント○金魚のファンと自認した男子学生三人に、いつの間にかメスの金魚がくっついて四人に。○本年6月に、うち一人が死去し、残るわ私一人。定めである。○彼女の死亡した報らせを受けた時の私のメモである。(駄作ながら)



「幼子のごとき心の そのひとわ
書き置きひとつ 無くて逝きしか」

作家略歴 長倉翠子 (ながくら・すいこ/1937～2016年) 福岡県生れ。66年益子町に築窯。72年日展入選、日展、光風会展で活躍。日本橋高島屋で個展。栃木県文化奨励賞。久保貞次郎、安達瞳子等と交友。1990年陶長倉翠子・久保貞次郎編が毎日新聞社発刊。2018年益子陶芸美術館で個展開催。陶芸家

出品者 堀 良慶さん



作家名	平井蝶仙
作品名	「柳下釣舟図」
材料・技法	絹本・着彩・軸装
制作年	1999年
サイズ	78.0×68.0cm

コメント 米軍の空爆で直径5～30m爆弾池があちこちにあり、そこにフナや鯉、雷魚が住んでいた。私たち兄弟が小さな頃、よく釣りをした。その時の情景を思い出し、思わず買ってしまった。太線の蝶仙のサインが良い。星野画廊にはこの太線の蝶仙のサインの作品が多数蒐集されている。故梅野隆さん旧蔵品。

作家略歴 平井蝶仙（ひらい・ばいせん/1889～1969年）京都市生れ。1906年京都市立美術工芸学校絵画科卒。07年文展入選。09、10、12、14年文展で3等賞。11年文展で褒状。15年文展で2等賞、無鑑査。24年帝展の審査委員。1969年没、80歳。日本画家

出品者 秋山 功さん

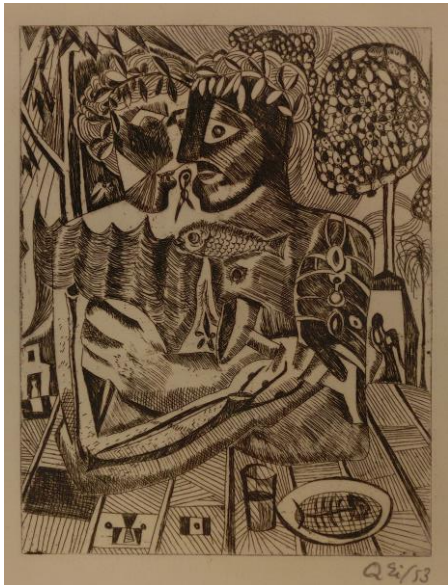


作家名	須田 剋太
作品名	「巳年春」
材料・技法	書・色紙
制作年	1989年
サイズ	色紙サイズ

コメント
その作品は、骨太で原子のエネルギーに満ちている。絵画だけでなく、書も豪快で作為がなく、心地よいファンも多い。

作家略歴 須田 剋太（すだ・こくた/1906～1990年）埼玉県生れ。1927年県立熊谷中学卒。独学で油絵を学ぶ。39年文展で特選。36年光風会展でF氏奨励賞。38年光風会展で光風特賞。40～49年光風会会員。49年国画会会員。抽象画を描く。71年司馬遼太郎の「街道をゆく」の挿絵。西宮市民文化賞、兵庫県文化賞。大阪府に2223点寄贈。大阪文化賞。講談社出版文化賞。神戸市で没、84歳。

出品者 和田孝明・幸子さん



作家名	璞九
作品名	「労働者(ed2)」
材料・技法	紙・エッチング
制作年	1951年
サイズ	14.0×10.8cm

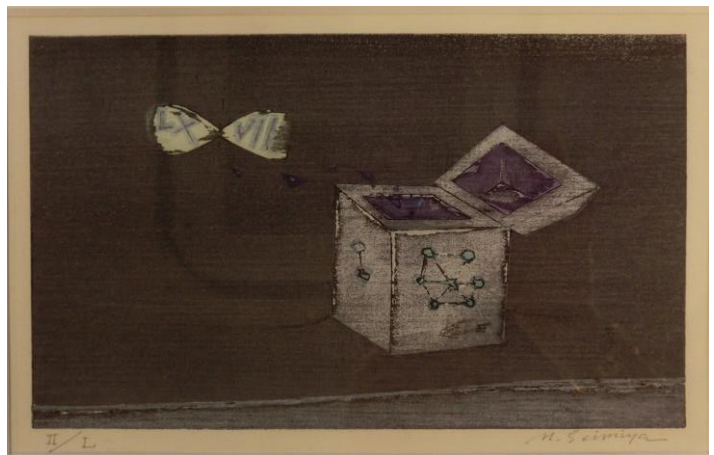
コメント 璞九は、さまざまなジャンルの作品をてがけた。戦前から前衛美術の先駆的役割を果たし晩年は、非具象油絵を発表した。

作家略歴 璞 九（えい・きゅう/1911～1960年）

宮崎市生れ。日本美術学校中退。洋画家、版画家、写真家。前衛的、抽象的な作品で知られる。フォトデッサンを制作。1937年自由美術家協会創立会員。51年デモクラート美術家協会を結成。創造美育協会に参加。東京で没、48歳。

出品者 新井 博さん

作家名	清宮 質文
作品名	「銀の小筐」
材料・技法	木版画
制作年	1967年
サイズ	11.0 × 18.3cm



コメント

蝶の羽根部分に制作年 1977パ
ンドラの箱

ED50になっているが実際は20部
16版・版木2枚 背景が緑、濃緑、
灰

作家略歴 清宮質文（せいみや・なおぶみ/1917～1991年）

東京生れ。父は画家の清宮彬。同舟舎に学ぶ。東京美術学校油画科卒。慶應義塾工業学校の美術教師を務める。1957年春陽会会員。サエグサ画廊・南天子画廊・フォルム画廊等で個展。木版画、ガラス絵等を制作。東京で没、73歳。

出品者 野原 宏さん



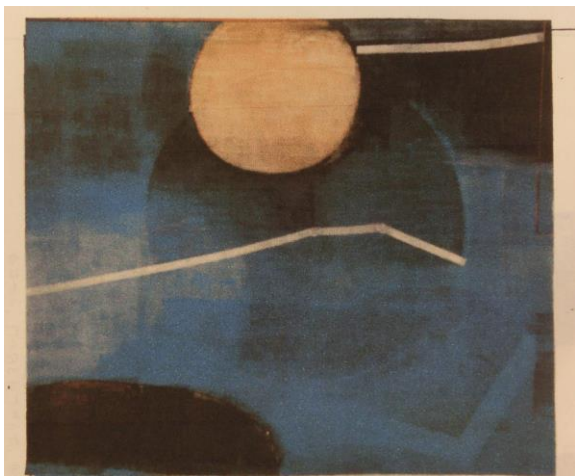
作家名	荒井龍男
作品名	不詳(西洋婦人)
材料・技法	ボード・油彩画
制作年	不詳
サイズ	26.9×21.5cm

コメント 荒井龍男の絵の魅力の一つに色彩の美しさを感じます。この小品にもそれが良く表れていると思います。

作家略歴 荒井龍男 (あらい・たつお/1904～1955年)

大分県生れ。1924年太平洋画会研究所。34～36年渡仏。ザッキンに学ぶ。37年自由美術家協会会員。50年モダンアート協会創立会員。NYリバーサイド美術館、サンパウロ近代美術館、ブリヂストン美術館で個展。55年没、51歳。

出品者 中村 徹さん



作家名	莊司貴和子
作品名	「玄海の月」と梅野隆 (資料あり)
材料・技法	岩彩
サイズ	180.5×210cm

コメント コレクターの執念 一定以上の技量のある作家にとって、「どのように描くか」だけでなく、作家は何を描くのか？が重要。社会との関係を自分なりに捉える。展覧会出品の後期作品は、団塊ジュニアにあたる作家の眼で時代を描く

作家略歴 莊司貴和子 (しょうじ・きわこ/1939～1979年) 神戸市生れ。1963年東京藝術大学日本画科卒、高校で教えながら制作活動。1964年新制作協会日本画部に出品、73、74年春季展賞。74～78年年創画展に出品、75～78年春季展賞。1979年没、39歳。2013年梅野記念絵画館で個展。

2019年平塚市美術館で莊司福、貴和子展開催。

出品者 中村 徹 さん

齊藤芽生とフローラの神殿 展
目黒区美開催中(出品「暗号韻」)
2016年紙にアクリル 45×45cm



作家略歴 齋藤芽生（さいとう・めお/1973年～）東京都生まれ。1996年東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒。2001年同大学院博士課程修了。10年「VOCA展2010」で佳作賞、大原美術館賞。10年アートプロジェクト「隅田川新名所物語」(「GTS(芸大・台東・墨田観光アートプロジェクト)」の一環)実施。(ギャラリー・アートアンリミテッド:東京都港区)で個展。06年「晒野団地四畳半詣」(ギャラリー・アートアンリミテッド:東京都港区)、08年「都市隠棲類図鑑part1『徒花園』」、09年「遊隠地／百花一言絶句」等。

出品者 薄井良昭さん



作家名 菅野くに子
作品名 「仮題: 卓上静物」
材料・技法 手漉き和紙に有機顔料・無機顔料を使用。作者自身で選択した鉱物を調合した顔料を使うこともある。
制作年 2018年
サイズ サムホール相当

コメント 2019.3月ギャラリーアビアント菅野くに子展を鑑賞。他にも関心の湧く作品はあった。

作家略歴 菅野くに子（かんの・くにこ/生誕年不詳～）東京生れ。武蔵野美術大学油画科卒業後、リトグラフ、エッチングを制作。1998年手漉き和紙に版画、ドローイングで描く。2001年ガレリアグラフィカ(東京)、05・07年ギャラリー舩(東京)、12年ギャラリーゴトウ(銀座)、15年ギャラリーアビアント、02・04・06・08・10・13年新潟絵屋で個展。

出品者 杉野和夫さん



作家名	向井潤吉
作品名	「二人の女性」
材料・技法	紙に水彩
制作年	不詳
サイズ	16×21cm

作家略歴 向井潤吉（むかい・じゅんきち/1901～1995年）
京都市生れ。弟は彫刻家向井良吉。1916年京都市美術工芸学校中退、関西美術院に学ぶ。20年上京、川端画学校に学ぶ。二科会展に入選。27～30年渡欧、午前中はルーブル美術館で模写、午後は自由制作、夜はアカデミー・ド・ラ・シヨミエールで素描。30年二科展で樗牛賞。36年二科会会員。戦争画を描く。40年昭和洋画奨励賞。45年行動美術協会創立会員。86年世田谷美術館で回顧展。93年世田谷美術館の分館として向井潤吉アトリエ館が開館する。東京で没、93歳。

出品者 福井 豊さん



作家名	テオフィル＝アレクサンドル・スタンラン
作品名	「宿営地で」Au Cantonnemen
材料・技法	モノクロリトグラフ・紙
制作年	1917年頃
サイズ	51.7×33.6cm

コメント 画家は1914～18年の欧州大戦中ベルギーの前線に赴き多数のスケッチを描き版画にした、その内の1枚。版上サインと別に鉛筆によるサイン、題名、エディション96/100記入。松方コレクション第7回売り立てとなる1934年上野公園日本美術協会開催青樹社主催「松方氏蒐集欧州絵画小品展覧会」出品115点中の1点。同展ラベル青樹社シール領収証額裏貼付。2003年瀬木慎一氏による作品認定書。

作家略歴 テオフィル＝アレクサンドル・スタンラン（1859～1923）Théophile-Alexandre STEINLEN
1859年スイス・ローザンヌ生れ。1881年パリ・モンマルトルに移住。
1883年雑誌「シャ・ノワール」挿絵寄稿。1888年アリストイド・ブリュアン歌集挿絵。1894年ボディニエール画廊初個展。1896年「ロドルフ・サリのシャ・ノワール一座巡業」ポスター。1901年フランス市民権。1923年モンマルトルで没、64歳。

出品者 野口 勉さん



作家名	笠松紫浪
作品名	①「白い猫」39/100 ②「わかい犬」68/100
材料・技法	新版画
制作年	1972年
サイズ	37×24cm

コメント 自画・自刻・自摺で細密で詩的な作品は魅力的だ。紹介作2点は希少な動物画であり私にとって非常に愛着のある作品である。

作家略歴 笠松紫浪(かさまつ・しろう/1898～1991年)
東京浅草生まれ。鏑木清方門下、日本画家として帝展や新文展で活躍、清方の指導により木版画へ。版元渡邊版画店の中核として活躍した。

出品者 横山俊樹さん



作家名	青木 繁
作品名	「桜」
材料・技法	①紙・鉛筆デッサン ②紙・水彩
制作年	1904年年
サイズ	① 18.6×11cm ② 18.6×11cm



作家略歴 青木 繁 (あおき・しげる/1882～1911年)
福岡県久留米市生れ。1899年上京、不同舎で小山正太郎に師事。1903年第1回白馬会賞。04年東京美術学校西洋画科選科卒。07年東京府勸業博覧会で三等賞。08年九州を放浪。福岡市で没、28歳。

出品者 鈴木忠男さん



作家名	上田泰江
作品名	「蝉」
材料・技法	板に紙・アクリル・水干
制作年	2000年
サイズ	22.7×15.8cm

コメント 杏美画廊(新宿、即閉廊)での第8回個展で購入。本人と会う機会
はなかった。京都府綾部の山里暮らしで、
京都で個展を続けている。現役、高齢画
家のひとりである。この先、九十歳を超え
ても描き続けて欲しい。蝉は抽象化され
てる。

作家略歴 上田泰江 (うへだ・やすえ/1930年～) 京都府生れ。染色を手掛け、1965
～91年日展などで活躍、美の概念の違いを知り、絵画に転向。82年鳥取市文化賞受賞、99年
NHK「土曜 美の朝」出演。2014年個展(蔵丘洞画廊.'15.'16.'17)、15年アートフェア東京2015

出品者 金子茂夫さん

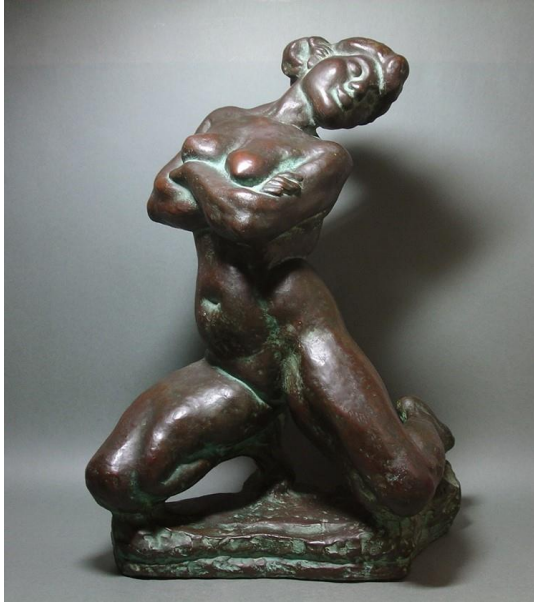


作家名	鳥海青児
作品名	「ねぎぼうづ」
材料・技法	キャンバス・油彩
制作年	不明
サイズ	33.7×24.5cm

コメント 無骨に盛り上がった絵肌感触。モチーフ
と背景との色彩的な渾然一体感触。モチーフの
表象化が背景に溶け込む寸前まで絞り込まれた地
点で、反転して見手を襲う強い存在感、そしていいし
れぬ懐かしさ。

作家略歴 鳥海青児 (ちょうかい・せいじ/1902～1972年)
平塚市生れ。金子保に学ぶ。関西大学経済学部卒。1928年春陽会賞。30～33年渡欧。33年
春陽会会員、43年独立美術協会会員。56年芸術選奨文部大臣賞。58年現代日本美術展で最
優秀賞、59年毎日美術賞。72年没、70歳。

出品者 平園賢一さん



作家名	木内 克
作品名	「見つけたポーズ」
材料・技法	ブロンズ
制作年	1954年
サイズ	57x45x26cm

コメント ゆーじん画廊の和田敏文さんがまとめた「木内克の言葉」という本がある。その冒頭には・・・その生涯を在野精神で貫き、初期の「見つけたポーズ」、中期の「露柱」、後期の「エーゲ海に捧ぐ」とある。この作品は間違いなく戦後日本における在野の傑作である。

作家略歴 木内 克（きのうち・よし/1892～1977年）
水戸市生れ。海野美盛に師事。1914年上京、朝倉文夫の彫塑塾。21年パリに留学、15年間仏滞。27年テラコッタ技法を修得。35年帰国。37年二科会会友。48年より新樹会に出品。62年現代日本美術展優秀賞。70年中原悌二郎賞受賞。77年没、84歳。

編集後記：年4回の放談会。平成が終わり令和が始まった本年度最後の放談会でした。(N)

発行 : あーと・わの会
発行日 : 2019年10月吉日
編集 : 実行委員 あーと・わの会 放談会チーム
司会進行 金子茂夫
写真、編集、デザイン 井澤尚子
連絡先 : 事務局（堀 良慶） 〒277-0871 柏市若柴1-358
TEL 04-7134-8293 ryokeihori@yahoo.co.jp